

第10回「山の日」記念全国大会実行委員会設立趣意書

日本は、北海道から九州に至るまで背骨のように山脈が連なり、国土の約7割を山地と丘陵地が占める世界有数の山岳国家です。これら山々の多くは、森林で覆われ、木材や食材の生産、生物多様性の維持、水源、土砂災害防止、酸素の供給など、私たちの暮らしを支える上で欠かせない存在です。

16番目の国民の祝日として制定された「山の日」は、こうした山に親しむ機会を得て、その恩恵に感謝する日とされており、この祝日が始まった平成28年から、この趣旨の浸透を図ることを目的に、「山の日」全国大会が各地で開催されてきました。

こうした中、令和8年度の第10回「山の日」記念全国大会を岐阜県高山市で開催することとなりました。

岐阜県は、日本のほぼ中央に位置し、「岐阜県民の歌」で「岐阜は木の国山の国」と謳われ、全国第二位の森林率を誇る森林県です。

岐阜県の飛騨地域には、日本に21ある3千メートルを超える山々のうち9つが位置しており、高山市からは、東に槍ヶ岳、穂高連峰、乗鞍岳などの飛騨山脈（北アルプス）、西に白山、南に御嶽山を望むことができます。

古くから、この山々を源とする清流と豊かな森林によって育まれた飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器などの匠の技、日本三大美祭に数えられる高山祭、千有余年の歴史を誇る鶺鴒などの伝統文化が受け継がれるなど、山の恵みを享受しながら生活を営んできました。

しかし、近年、成熟しても伐採されない森林や手入れが行き届かない森林、所有者不明の森林が増加し、災害防止や地球温暖化・エネルギー対策の面からも対策が急務となっています。また、森林空間が持つ多様な価値を、健康、観光、教育など多方面で活用し、私たちの生活や人生を豊かにすることが一層求められています。

第10回「山の日」記念全国大会では、岐阜県の山の魅力や恵みを広く発信することはもとより、こうした諸課題への対応策について提言することで、山への感謝を行動に移す契機となる大会としていきます。

大会の開催に向け、関係機関、団体等、幅広い皆様の力を結集し、ここに第10回「山の日」記念全国大会実行委員会を設立します。

令和7年9月11日